

レビュー

第2回「九州」半導体産業展

(下)

10月8～9日に開催された第2回「九州」半導体産業展の内容を詳述する本連載。後編となる今回は、半導体産業を支える機器、部材企業や併催された物流展における半導体関連の展示にスポットを当てる。

今回初出展のチノーは、九州エリアでの認知拡大や顧客の開拓を目的に出展。ウェハー温度の測定や結晶成長などに用いる放射温度計を目玉製品として紹介した。同製品は従来非接触、高温、高速測定などが好評を得

ているが、紹介した新製品はこれまで覗き窓から確認していた測定ポイントについて、製品にビデオカメラを搭載して明確化した。

同じく九州エリアでの販路拡大を目指して初出展したのは、長野県で光学レンズ向けの製造設備を展開するナカタ。同社は光学レンズの研磨技術を応用し、半導体ウェハーの研磨や研磨装置の展開も進めている。大分県にも拠点を有し

ており、九州において半導体向け製品の販路を目指して出展に至ったという。展示したのはオスカー式研磨機で、多品種小ロットの研磨加工ができる点が特徴だという。

シリヤ電子工業は、2024年の盛況を見て今回の出展を決定。基板の実装や搬送まわりの製品を紹介した。

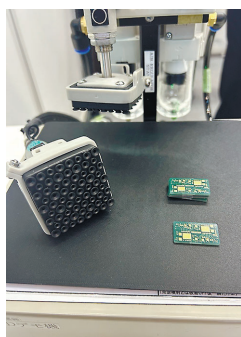
装置の引き合い強化を目的に精密測定機器の展示も開始した。岩谷産業は主力の産業ガス事業で展開する半導体材料ガスに加え、商社として取り扱う検査などの装置製品を紹介した。

岡市や鳥栖市、熊本県益城町のロジスティクスセンターをアピールした。福岡は海外への窓口として、鳥栖は九州および全国を結ぶ物流の要、熊本は同エリアの半導体関連工場の門前倉庫としての役割をそれぞれ担っている。

物流展でも半導体関連PR

さらなる拡大、東京開催も

シリヤ電子の調整吸着ヘッド



マリンメッセA館では、第1回「九州」次世代物流展も併催された。同じフロアに半導体産業展が同居していることもあり、半導体産業を意識した展示も行われた。

このほか、東京精密は24年の第1回では半導体製造装置をメインに出展したが、24年の来場者の状況を鑑みて今回は計画

地「(仮称)サザン鳥栖クロスパーク」の開発事業を紹介した。佐賀県と鳥栖市が官民連携で進めているもので、計画段階から自動運転トラック、工場自動化に対応して整備される次世代型産業団地である。高速道路にも鉄道にもアクセス至便な立地で、開発予定面積は約34万㎡と広大だ。

年ごろに地区計画を決定して28年ごろから順次着工し、30年前半の街開きを目指している。半導体関連産業のみを立地対象としているわけではないが、有力候補として誘致を図っていく。

このほか、A館の外には実車展示ゾーンも設けられた。燃料電池小型トラックや商用電気自動

車、大型トラック2台分の輸送が可能なダブル連結トラックなどが展示され、物流業界に対する輸送力向上、環境対応がアピールされた。

第3回「九州」半導体産業展は、26年9月30日～10月1日の開催を予定している。マリンメッセ福岡A・B館に加えて近隣の博多国際展示場も会場とし、さらに規模を拡大する予定だ。今回の併催展は「九州」次世代エネルギー展を予定している。



FCトラックなど実車も展示

(この稿終わり)

(副編集長 中村剛/日下千穂記者)